

施策マネジメントシート1(20年度目標達成度評価)

作成日 平成 21 年 6 月 23 日
更新日 平成 21 年 10 月 28 日

総合計画体系	政策No.	3	政策名	働く人々が輝き続けるまちづくり	施策統括課	商工振興課	施策統括課長名	米澤 俊一
	施策No.	12	施策名	商工業の振興	関係課	企画財政課、上下水道課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等

ア) 市内の工業事業所
イ) 市内の商業事業所

② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか)

ア) 健全な経営がなされている
イ) 売上げが確保され、健全な経営がなされている

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

A: 工業出荷額は、工業統計調査で毎年把握可能(9月速報、翌3月確報)
B: 市内製造業の従業員数(従業員4人以上の事業所)は、工業統計調査で毎年把握可能。

C: 商業売上高合計は、商業統計で3年に一度把握可能。

D: 商業就業者数は、商業統計で3年に一度把握可能。

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 工業事業所数	事業所
B 商業事業所数	事業所
C	

④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない

名称	単位
A 工業出荷額	万円
B 市内製造業の従業員者数(従業員4人以上の事業所)	人
C 商業売上高合計	万円
D 商業就業者数	人
E	
F	

2 指標等の推移

指標名		単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	
対象指標	A	事業所	見込み値				49	49	49	49	
			実績値	47	47	47	47				
	B	事業所	見込み値				346	343	340	337	
			実績値	355	352	349	344	344			
	C		見込み値								
			実績値								
成果指標	A	万円	目標値				32,500,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000	
			実績値	28,587,694	26,119,425	28,915,684	29,505,637	19,822,722			
	B	人	目標値				5,000	5,010	5,015	5,020	
			実績値	4,432	4,722	4,683	4,767	4,699			
	C	万円	目標値				4,742,768	4,742,768	4,742,768	4,742,768	
			実績値	4,840,882	4,800,218	4,761,816	5,179,038	未把握			
	D	人	目標値				2,077	2,077	2,077	2,077	
			実績値	2,425	2,303	2,187	2,119	未把握			
	E		目標値								
			実績値								
	F		目標値								
			実績値								
事務事業数			本数			30	28	30	26	26	
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円			0	40,000	0	0	0
			都道府県支出金	千円			0	0	0	0	0
			地方債	千円			0	0	0	0	0
			その他	千円			28,167	41,122	40,104	43,292	42,143
			繰入金	千円			15,926	4,523	8,300	5,150	5,726
			一般財源	千円			16,671	16,630	18,587	18,672	15,921
		事業費計（A）	千円	0	0	60,764	102,275	66,991	67,114	63,790	
		(A)のうち指定経費	千円			34,537	36,772	37,004	37,106	36,374	
		(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円			20	38	52	84	84	
	人件費	延べ業務時間	時間			7,700	7,620	6,483	6,483	6,483	
		人件費計（B）	千円			30,799	30,479	25,930	25,930	25,930	
	トータルコスト(A)+(B)			千円	0	0	91,563	132,754	92,921	93,044	89,720

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)

A: 工業出荷額は、18年度以降半導体関連の伸び、新規企業の進出、既存の増資が堅調で19年度は3250億円を目標値とした。その後は、現在の経済動向などからほぼ横ばいと見込むが、企業の増資計画等への積極的な支援をすることにより、22年度の目標値は3,300億円と設定した。
B: 製造業の従業員数は、16年度から17年度にかけての従業員の増加が6.5%となっているが、18年度以降半導体関連の伸び、新規企業の進出、既存の増資が堅調で19年度は5,000人を目標値とした。20年度以降は、増資・増設の積極的な支援により、従業員数は若干の増加で推移すると考え、22年度目標値を5,020人とした。
C: 商業売上高は、個人商業者の減少を反映して、0.8%の減少を見込んでいるが、19年度物産館の増設、北バイパスの開通による地元商店周辺への集客、光の森隣接の店舗数の増加等から、現状傾向の歯止めになることを期待して、22年度目標値を4,742,768万円に設定した。(この目標値設定後、ニコニコ堂跡地への出店が手続き中であり、21年度以降の好転が見込める)
D: 商業就業者数は、18年度までの減少率を加味して、19年度目標値を2,077人とした。19年度以降は、物産館の増設、北バイパスの開通による地元商店周辺への集客、光の森隣接の店舗数の増加等から、減少の歯止めとなると考え横ばいと設定した。

基本計画期間における施策の方針

・土地利用基本計画に基づいて優良企業を誘致する。
・地場の商工業の活性化をはかる。

全庁横断課題『子育て支援日本一のまちづくり』との連携

・子育て支援の観点から、個人商店、事業所が、緊急時のこどもたちの避難場所、見守り場所としての機能を高める。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
・企業の自助努力による業績の向上。優秀な従業員の確保、研究開発の充実。健全な運営。
・商工会には同業種間・異業種間の共存共有の連携・協力を推進してもらおう。また、企業間の連絡調整を円滑に
してもらおう。

イ) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

市:工業団地の造成、優遇措置による企業誘致。大学や電波高専との連携。

市内企業の求人情報の提供。住宅用地の確保。交通インフラの整備。

商工会の育成。企業等連絡協議会の運営支援

県・国：工業団地の造成、優遇措置による企業誘致。規制緩和。雇用対策の推進。産学官連携。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか？(平成22年度を見越して)

- ・農業委員会の許認可事務が権限委譲で県から市においてくる可能性がある。
- ・改正都市計画法を活用して新たなまちづくりが可能になる。
- ・ニコニコドー跡に生鮮食料品（スーパー）と家具・日用品の店がH20年9月に開店した。
- ・隣接市町への大企業進出により、関連企業の進出を予測していたが、H20年秋からの世界同時不況の中で、自動車・半導体等の製造業を始め、全ての業種において厳しい経済状況となった。
- ・H20.10.31施行した中小企業支援のための原材料価格高騰対応等緊急保証制度（セーフティネット認定事務）が急増した。
- ・H21年3月に売買契約（購入）が成立した県農業研究センター採草地6.6ha及び周辺の民地も含めた地域を工業団地としての土地利用を計画し、企業誘致につなげていく。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ・議会では個人商店の振興に関する質問があった。
- ・商工会から地元業者の利用促進の要望が寄せられている。
- ・住民から大型商業施設の立地に対する協力要請があるが、竹迫地区については現計画の24haでは、開発行為の法的クリアができないと判断し、市の支援を打ち切った。
- ・市民ワークショップで「合志市の中心商店街がない」「老人が歩いていけるショッピングセンターが少ない」との意見があった。
- ・商工業者等から、中小企業振興基本条例の制定についての要望があった。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(20年度目標と実績との比較)

- | | | |
|-------|---|---|
| A → × | 【 工業出荷額(製造品出荷額) 】 | |
| : | 目標値33,000,000万円に対し実績値は19,822,722万円であり、目標の60.1%であった。 | |
| B → × | 【 市内製造業の従業者数(従業員4人以上の事業所) 】 | |
| : | 目標値5,010人に対し実績値は4,699人であり、目標の93.8%であった。 | |
| C → - | 【 商業売上高合計 】 | |
| : | 3年毎の商業統計のため把握できない。 | |
| D → - | 【 商業就業者数 】 | |
| : | 3年毎の商業統計のため把握できない。 | |
| E → | 【 | 】 |
| : | | |
| F → | 【 | 】 |
| : | | |

※○;目標達成 △;目標をほぼ達成(－5%程度) ×;目標を未達成

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

A: 昨年秋からの世界同時不況の影響で、本市の主力である半導体・自動車関連企業の出荷額が、前年実績より大きく落ち込み目標を達成できなかった。
B: 昨年秋からの世界同時不況の影響で、従業員の解雇等が行なわれ、目標達成ができなかった。

C及びD： 3年毎の統計調査であり、実績は測れない。昨年秋からの不況により、若干の買い控えはあると思われるが、前年並みの実績を予想している。

② 施策の振り返り(施策の方針、全庁横断課題との連携の達成度等)

- ・工業の振興では、H20年秋からの世界同時不況の中で、それまで好調であった自動車・半導体等の製造業を始め、全ての業種において業績の悪化など影響が出ており、生産調整や従業員の解雇等厳しい状況となっている。
- ・商業では、市南西部の市街化区域周辺では、ある程度の売上高が確保できているが、既存地域の商店では、たばこの販売数など減少していると思われる。
- ・事務事業貢献度評価の結果では、平成20年度施策の成果を向上させるために最も貢献したとして工場等立地促進事業（ゴウシテック）があげられ、特に貢献したとして企業誘致事業及び企業誘致PR活動事業、貢献した事務事業には誘致企業支援事業（セミコンテクノパーク下水道整備事業）が位置づいた。

③ 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・熊本県から20年度購入した土地6.6haが、景気回復時の誘致活動に即対応できるように工業用地としての整備計画の実施
- ・新規工場等立地の際の開発許可等の許認可事務期間の短縮を関係機関(県)に働きかけていく。
- ・市内商店等の購買力の強化対策に取り組む必要がある。
- ・3年毎の統計調査では成果が毎年測れないので、「市域内での買い物する人の割合」など市民アンケートによる成果指標を考える必要がある。

施策マネジメントシート2(20年度目標達成度評価)

5 施策の20年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成21年 7月 2日)

- ・成果を測る指標について、市域内で生活用品をどれだけ購入されているのかを測る指標が必要と考えられるが、市商工会加盟店でも小売店はわずかであり、生活圏内で周辺の商業施設での買物ができている状態に満足されていることも考えられ、市の強み、弱みを明らかにする指標を検討していく必要がある。
- ・基幹統計の経済センサスによって、市内の事業所等が把握でき、商工会加盟店以外の非加盟店舗の分析など、対策立案に活用していくこと。
- ・新規企業(事業所)の進出計画等について、時機を逸すると他の自治体へ流れてしまう実情もあることから、立地の際の開発許可等の許認可事務について、期間の短縮を関係機関(県)に働きかけていくこと。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成21年 8月 5日、8月10日、8月26日、9月3日まとめ)

- ・市内商工業者の能力開発、新たな展開に向けた事業者側の意欲も必要ではあるが、外部の人材を注入し新規起業を推進するための基金創設について検討する必要がある。
- ・商工会と連携し市内での消費を促進する手立てを検討するとともに、地場産業、企業の育成にも力を入れる必要がある。
- ・新規企業進出の計画等に迅速に対応するため、進出時期を逸しないよう許可機関への働きかけを強化すべきである。また、小規模工場などの事業所進出に対し、都市計画マスタープランとの整合を図りながら、必要に応じて規制の緩和を働きかける必要もある。
- ・企業誘致について、まずは市長をはじめとしたトップセールスの積極的な推進が必要であり、そのための環境と条件を整える必要があり、商業施設の適正な誘致拡充を図る必要がある。
- ・合志市の産物を使った加工製品の生産に関する取り組みを振興する必要がある。

③ 議会の決算審査における指摘事項(平成21年10月 2日)

- ・地元業者への市発注事業の拡大。それに伴う入札制度の改善。
- ・小規模小売店への保護対策。
- ・既存産業以外の他産業への企業誘致。

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成22年度合志市経営方針(平成21年10月23日)

- ①平成22年度から取り組む中小企業振興基本条例の制定の中で、市としての商工業振興施策を具体化する。
- ②企業誘致を促進するため、合志中央工業団地(仮称)の造成に取り組む。

基本事業名		33 人材の確保		基本事業担当課		商工振興課				
対象		工業・商業事業所		意図		人材が確保されている				
成果指標名		単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A 後継者の育っている事業所数 (商工会青年部会員数)	ヶ所 (人)	目標値					(64) 42	(64) 42	(64) 42	(65) 43
		実績値				(64) 42	(66)	64		
B 市内製造業の従業員者数(従業員4人以上の事業所)	人	目標値					5,000	5,010	5,015	5,020
		実績値	4,432	4,722	4,683	4,767	4,699			
C 商業就業者数	人	目標値					2,077	2,077	2,077	2,077
		実績値	2,425	2,303	2,187	2,119	未把握			

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

(A)後継者の育成については、18年度水準で42で推移する。商業にあつては、大規模小売店の進出、経営規模の縮小、などにより、後継者の育成が困難な状況にあるが、中小企業大学校研修への支援、商工会の人材育成への支援を強化することで維持できるとして、22年度の目標値を43人と設定した。後継者の育っている事業所数については、把握が曖昧であったので、商工会加盟事業所の40歳以下で組織する青年部の会員数()の推移で把握することとした。

(B)16年度から17年度にかけての従業員の増加が6.5%となっているが、18年度以降半導体関連の伸び、新規企業の進出、既存の増資が堅調で19年度は5,000人を目標値とした。20年度以降は、増資・増設の積極的な支援により、従業員数は若干の増加で推移すると考え、22年度目標値を5,020人とした。

(C)18年度までの減少率を加味して、19年度目標値を2,077人とした。19年度以降は、物産館の増設、北バイパスの開通による地元商店周辺への集客、光の森周辺の店舗数の増加等から、減少の歯止めとなると考え横ばいと設定した。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

Aの成果指標については、2名減になっているものの目標は達成している。

Bの成果指標については、昨年秋からの世界同時不況の影響で、従業員の解雇等が行なわれ、目標達成ができなかった。

Cの成果指標については、3年毎の商業統計の数値のため把握できないが、前年並みの数値で推移するものと思われる。

基本事業名		34 生産・販売力の強化		基本事業担当課		商工振興課				
対象		工業・商業事業所		意図		経営基盤が確立している				
成果指標名		単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	工業出荷額	万円	目標値				32,500,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000
			実績値	28,587,694	26,119,425	28,915,684	29,505,637	19,822,722		
B	商業売上高	万円	目標値				4,742,768	4,742,768	4,742,768	4,742,768
			実績値	4,840,882	4,800,218	4,761,816	5,179,038	未把握		

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

(A)18年度以降半導体関連の伸び、新規企業の進出、既存の増資が堅調で19年度は3250億円を目標値とした。その後は、現在の経済動向などからほぼ横ばいと見込むが、企業の増資計画等への積極的な支援をすることにより、22年度の目標値は3,300億円と設定した。

(B)個人事業者の減少を反映して、0.8%の減少を見込んでいるが、19年度物産館の増設、北バイパスの開通による地元商店周辺への集客、光の森周辺の店舗数の増加等から、現状傾向の歯止めになることを期待して、22年度目標値を4,742,768万円に設定した。(この目標値設定後、ニコニコ堂跡地への出店があり、21年度以降の好転が見込める)

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

Aの成果指標については、昨年秋からの世界同時不況の影響で、本市の主力である半導体・自動車関連企業の出荷額が、前年実績より大きく落ち込み目標を達成できなかった。

Bの成果指標については、3年毎の商業統計の数値のため把握できないが、市南西部の市街化区域周辺では、ある程度の売上高を確保し、既存地域の商店では、たばこの販売数など減少していると思われるが、前年並みで推移するものと思われる。

基本事業名		35 企業誘致の促進		基本事業担当課		商工振興課				
対象		市内に立地しようとする企業		意図		立地できる				
成果指標名		単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	立地企業数	社	目標値				1	2	1	1
			実績値	2	1	2	0	0		
B	増設、増資の協定締結企業数	社	目標値				2	2	2	2
			実績値			3	3	2	2	

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

(A)新規立地は、既設工業団地の空きがないことで困難ではあるが、既設工場跡地や地区計画制度等を活用し、立地を推進することで目標値については、毎年1あるいは2企業の立地が見込まれると設定した。企業立地は結果として毎年出るわけではないので、成果指標(B)として、市内企業のうち「増設、増資の協定締結企業数」を加え、既存企業の新たな増設等について成果を計ることとし、目標値を自動車、半導体産業の集約等を見込み毎年2社とした。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

Aの指標については、工業団地の用地が全て埋まっていること、開発行為等の手続に時間を要すること、不況の影響などから、目標を達成することができなかった。

Bの指標については、目標は達成しているものの、上半期の数値であり、下半期については、不況の影響で企業にとってかなり厳しい状況となっている。

基本事業名		36 異業種連携の促進		基本事業担当課		商工振興課				
対象		中小企業(工業)、中小小売業		意図		企業間の連携を図っている				
成果指標名		単位	数値区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
A	企業等連絡協議会の加盟企業数	社	目標値 実績値	59	56	67	69 69	71 72	72	73

8. 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

(A)協議会活動の推進を行い、新たに立地した企業について、協議会に加盟するとして22年度の目標値を73社とした。

9. 基本事業の20年度の振り返り(目標達成度評価)と22年度に向けての課題

目標値は達成しており、企業連の交流事業の中では、不況下にもかかわらず前向きな意見交換ができていたようであり、企業の経営手腕に期待したい。